

学番	28	村上桜ヶ丘高等学校
----	----	-----------

令和5年度 学校自己評価表(報告)

学 校 運 営 計 画				
学校運営方針	全職員が一丸となって、生徒の学力の向上と部活動の振興に努め、活力ある学校を創造する。 生徒一人ひとりの将来への思いに耳を傾け、関わる指導を展開し、確かな学力と専門知識、豊かな感性、規範意識をもつ生徒を育成する。			
昨年度の成果と課題	令和5年度の重点目標	具 体 的 目 標		
村上地域に根ざした学校運営のもと、地域の中学生や保護者には人気が高く希望が多い学校となっている。例年、「勉強と部活動を両方頑張る学校」を合い言葉に、「産業社会と人間」の授業や系列を生かしたキャリア教育は一定の成果をあげている。また、進学はより難易度の高い大学へチャレンジする生徒も増えている。就職では、希望者全員が早期に内定した。生徒一人ひとりの進路実現のため、また抱えている悩みや問題を解決するため、組織的に支援し関わっていくことが大切である。	・規律があり充実した授業を展開し、学習意欲の高揚と基礎学力の向上を図る。	・生徒に本気で向き合い、生徒を授業に集中させる。・教科指導や生徒指導においても「わかる」ところからの指導に心がける。 ・指導方法は常に見直しや検討を加え、創意工夫を行う。・チャイムからチャイムまでの指導を徹底する。・授業参観等をとおして互いに研修を深める。		
	・規範意識をもち、豊かで充実した学校生活の推進を図る。	・人権教育、同和教育を充実、発展させる。・制服指導を徹底する。・登下校時、集会時も正しい服装、態度で行動するよう指導を徹底する。・部活動の一層の活性化を図る。・部活動の統廃合について取り組む。・スマートフォンの使用についてルールとマナー指導を強化する。		
	・地域や中学校と情報の共有や行動の連携を深め、本校の教育活動のPRを強化する。	・情報提供、情報収集に努め、説明責任を果たす。・本校の総合学科の魅力を発信する。		
重点目標	具体的目標	具体的方策		評価
生活習慣や学習習慣の確立、進路実現	・基本的な生活習慣の確立	・学習と部活動の両立を図り、学校生活を中心とした生活習慣を確立する。	A	A
		・頭髪・服装等いつでも面接試験を受けられるような正しい身だしなみの指導を徹底する。	A	
		・スマートフォンやアルバイトなどの校則をしっかりと理解させ、守らせる。	B	
	・基礎学力の向上と学習習慣の定着	・日々の授業や補習を通して、基礎学力の向上を図る。	A	
		・朝学習や週末課題などを活用して、学習習慣の定着を図る。	B	
		・大学進学希望者に模擬試験や進学補習を受けさせる。	B	
	・進路実現へ向けての努力	・系列選択を通して、進路選択の動機付けを行う。	A	
		・「総合的な探究の時間」や「産業社会と人間」の時間を活用して、生徒への情報提供を行うことで、進路選択を具体化させ、進路実現のための基礎準備を図る。	A	
		・資格検定に積極的に挑戦させ、努力し挑戦する意識を育成し、スキルアップを目指す。	A	
	2年次	・基本的な生活習慣の向上	・学校生活を中心とした基本的な生活習慣を確立させる。	
・部活動に積極的に参加し、学習との両立を維持する。			B	
・高校生らしい身だしなみ、マナーを身につける。			B	
・学習習慣の定着		・毎時間の授業に集中して取り組み、課題の提出なども確実にする。	B	
		・朝学習、週末課題の実践を通して、家庭学習なども含め学習習慣を充実させる。	A	
		・希望する進路を意識した学習、資格取得計画を立て、向上心を持って取り組む。	A	

3 年 次	・進路実現へ向 けての努力	・卒業後の進路について真剣に考える。	A	A	A
		・自己の能力、適性について探求し、目標設定の糧にする。	A		
		・目標とする進路実現に向けての具体的な取り組みを積極的に行う。	A		
	・基本的生活習 慣の確立	・心身の自己管理徹底し、高い出席率を維持させる。	B	A	
		・種々のルールを遵守させ、規範意識の向上を図る。	A		
		・マナー、コミュニケーションスキルの向上を図り、社会性を身につけさせ	A		
		・課外活動への参加を奨励し、学習との両立を維持させる。	A		
	・学力の向上	・授業への取り組み意欲向上や課題提出に対する意欲の向上を図る。	B	A	
		・朝学習、週末課題等の活用により、学習習慣の定着を図る。	A		
	・進路希望の実 現	・生徒、保護者との連絡を密にし、進路希望を明確にさせる。	A	A	
		・進路に関する情報提供を行うことで生徒に意識啓発を促し、積極的な活動に繋げる。	A		
		・進路希望に応じた特色ある活動への参加と資格取得等への積極的な取り組みを促す。	A		

令和5年度

学校自己評価表(報告)

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価		
各分掌との連携や信頼される学校作り	・学力の向上	・授業規律の確立を図るとともに、生徒の学習機会を保障する。	A	A	
		・考査時の規律の徹底を図り、生徒が考査期間中の学習活動に集中できる環境を整える。	A		
		・各種検定・資格取得への取り組みを促す。	B		
	・開かれた学校づくりの推進	・学校案内やwebページの充実を図り、学校の取り組みや情報を積極的に発信する。	A	A	
		・本校の魅力が中学生に十分に伝わるようなオープンスクールを計画・実施する。	A		
	・校内ICT環境の整備と活用	・職員が自身の授業配信や、学習教材の作成のための一定の知識とスキルを身につけられるように、職員向け研修会等を計画、実施する。	B	A	
	・教育課程の整備	・各年次と連携して、生徒にとってより良い系列・授業選択ができるように、日程調整や資料の作成を行う。	A		
	・図書館利用の促進	・図書貸し出し、学園祭への参加などを図書委員長を中心にして全員が当たる。	B		
	・PTA総会等を通じて、会員の意思がより表明できる	・委任状を含めた出欠票の工夫をしたり、公開授業や学年別行事を併催して、出席率の向上を促す。	A		
	・進路指導を含めたPTA進学研修会を実施し、家庭での進路決定を促す。	・研修会に多くの参加が得られるよう上級学校の選択についてアンケートをとることや、開催方法を検討するとともに、評議員による参加PR活動を促す。	A		
・成果を上げてきている進路指導に対し、財政面からも一層支援体制を強めていく。	・進路対策費の予算の使い方を、役員と進路指導部で考え、適切な運用を図る。	A			
進路指導部	・生徒が主体的に進路選択できる情報を提供する	・受験報告書・受験データの活用・各種ガイダンスの実施・進路だよりの発行	B		B
	・生徒がより高い目標を持てるよう意識の高揚を促す。	・進路ガイダンス、面談等での情報提供	B		
	・個別指導の充実	・志望理由、面接、小論文、補習等の個別指導の充実	A		
	・基本的な生活習慣の向上	・始業時の遅刻がなくなるよう、定期、不定期で立哨指導を行う。	A	B	
		・服装頭髪検査、登校時立哨指導に加え、全職員体制で日常的に身だしなみについて声がけ指導する。	B		
	・盗難の防止	・ロッカーの施錠、所持品への記名など、自己管理が徹底するよう指導し、必要に応じ校内巡視を行う。	B	B	
	・携帯電話の使い方指導	・校内での使用規則や、社会的な規範について指導する。	B	B	
		・SNS利用についてのモラル、マナーについて指導する。	A		
	・問題行動に対する適切な指導	・校内外の関係機関との連携を深める。	A	A	
		・生徒の行動、背景などの情報を整理、共有し、指導実践に配慮する。	A		
	・交通事故ゼロと交通マナー向上	・交通講話等を通して、交通ルールに対する規範意識を高める。	A	A	
・バイク実技講習会を実施し、原付バイクに関わる安全教育実施する。		A			
・駐輪場の管理、自転車施錠の調査を通して盗難等を防止する。		B			

生徒指導部	・自主的・自発的な活動ができる生徒会執行部を育成し、生徒の積極的な生徒会活動への参加を推進する。	・生徒会指導部と生徒会執行部の連携を深め、積極的な活動に繋げる。	A	A
		・生徒会行事の成功に向け、各種委員会・部活動の活性化を図る。	A	
		・各種活動が円滑に進められるよう適正な会計を行う。	A	
	・健康診断を行い、生徒の健康状況を把握し、健康管理をする。	・定期健康診断を実施し、異常が発見された場合、治療勧告等の事後処置を行う。身体面で留意が必要な生徒を把握し、職員の共通理解を図り、健康管理をする。	A	A
	・疾病予防と生徒の実態に即した保健指導を行う。	・保健室に訪れる生徒に対して、必要に応じて指導する。保健だよりによる啓発を行う。保健講話を実施する。	A	
	・健康相談を行う。	・心身のバランスを崩している生徒に対し、担任はじめ関係する職員、場合によっては保護者や医療機関と連携をとりながら、援助する。	A	
	・傷病者に対しての適切な救急処置を行う。	・適切な救急処置ができるよう校内救急体制を確立するとともに、医薬品の管理や技術の向上に努める。	A	A
	・災害時における防災訓練を実施する。	・様々な災害に対応できる訓練を実施する。	A	
	・校内美化活動を実施し、学習環境を整える。	・清掃時間、清掃区域の周知徹底を図り、生徒と全職員で校舎内外の美化に取り組む。 ・各クラス1回、外清掃を行う。	A	
	・応急手当講習会を行う。	・1年生、全職員に応急手当講習会を実施し、救急蘇生に関する知識と技術を身に付ける。	A	

令和5年度

学校自己評価表(報告)

重点目標	具体的目標	具体的方策	評価			
基礎学力の向上と学習習慣の確立	国語科	・生徒一人ひとりの基礎力の向上を図る。	・小論文の個別指導	A	A	
			・小テスト及び朝学習、課題テストの実施	A		
		・進路実現に向けた応用力を身につけさせる。	・進学補習(センター試験対策等)及び欠点者補習の実施	B		B
	数学科	・進路希望達成のための基礎学力の向上を図る。	・小テストを充実させる他、年間の目標や具体的方策を策定する。	A	A	A
			・こまめにノートチェックを行い、生徒の習熟度を的確に把握し、テストの点数以外でも生徒の適切な評価が総合的に判定できるよう努める。	A		
			・1年次生は、習熟度別クラス展開授業を実施し、学力向上を図る。	A		
			・3年次生の進路実現のため、教育効果が上がるための補習等、課外活動を利用しながら、計画的に丁寧な指導法で取り組む。	A		
			・数学検定を中心とし、資格取得を積極的に促し、考査学習以外にも数学を学習する機会を設ける。	A		
			・2年次生自然科学系列で継続性を計るために数学Ⅱ、Aを直列で行う。	A		
			・基礎学力向上のため、自習には代替授業等に対応し、授業の充実に努める。	B		
	地歴公民科	・教科の特性として、用語・地名・年号など基礎的な知識の定着に向けて小テストや基礎テストを実施する。	・単元別の小テスト、教科書の確認テストの実施。	B	B	A
			・地理では、基礎的な地名の定着による空間認識の向上を図る。	A	A	
・各科目の必要性を生徒に説くことにより、科目への動機付けを行う。		・現代社会、公共では、憲法学習を中心とし、政治の基本的な仕組みを指導する。また基本的な人権の学習を通して、人権教育を継続して実施する。	A	A		
・ノート指導を徹底させることにより、授業時間の有効な活用を図る。		・倫理では、青年期の特性や先人の思想を学習することにより、生徒の人格向上を目指す。	A	A		
理科	・受験科目にする生徒には個別に補習を実施する。	・板書は分かりやすく、丁寧な説明を心掛ける。	A	A	A	
		・生徒の能力に応じたより適切な授業、および考査問題の作成を行う。	・複数で担当する共通の科目については、授業内容を担当者間で確認して授業をする。また、考査原案を1週間前に作成して、考査の問題内容について総合的に考査前後で検討する。	A		
		・基礎的な内容を重視し、基礎学力の定着を図る。	・宿題を適宜課し、学習の定着を図る。	B		B
	・単元別の小テストを実施する。	B				
		・科学現象を体験させることができる実験を実施する。	B			

英語科	・生徒の基礎学力、進路希望に合う学習指導を充実させる。	・実用英語検定を受験する生徒の学習支援を充実させ、2級や準2級の合格者を出すことを目指す。	A	A	A
	・1年次生における習熟度別クラスの授業を継続し、高校英語の基礎・基本を定着させる。	・進学補習(大学入学共通テスト対策等)の実施	B	B	
	・生徒の進路目標を実現させるために、生徒の基礎学力に合った補習を行う。	・単元別の小テスト、単語テスト等の実施	A	A	
保健体育科	・基礎体力の向上	・体育授業導入時の補強運動と「体づくり運動」における全面的な運動の充実 ・ウォーミングアップ時のランニングと陸上競技(長距離走)の実施	A	A	A
	・規律を守り、時間を厳守する意識と行動の育成	・自他を尊重する態度を育み、集団の一員であることの自覚と責任感を養う「集団行動」の徹底	A	A	
	・健康・安全についての理解を深め、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成	・体調に応じた運動量の調整、仲間や相手の技能・体力の程度への配慮、用具や場の安全の確保	A	A	
	・健康の保持増進に関する知識の習得と生活の中で実践し活用できる能力の育成	・健康の保持増進に関する知識の習得と生活の中で実践し活用できる能力の育成	A	A	
家庭科	・技術検定に積極的に取り組む。	・検定の教材を工夫し学習が深まるように指導することで、技術力の向上を目指す。	A	A	
	・生徒の興味関心を高める教材を取り入れる。	・ICT、DVD、ビデオなど視聴覚教材を活用する。	A		
	・地域との交流を深め、学習活動に生かす。	・保育園訪問や地域の伝統文化を学ぶ機会を増やす。	A		
福祉科	・体験的な学習を取り入れる	障害者施設実習、高齢者施設見学を実施する。 地域の力を借りて、ユニバーサルなスポーツなどの体験する。	B	A	A
	・外部講師の活用	・視覚障害、聴覚障害の方からの講演を聞くことで、具体的に理解につなげる。	A	A	
農業科	知識・技術の習得と自主的に取り組む生徒を70%にする。	・規範を学び、自主的に行動する生徒を育成するためのGAPを実施する ・知識・技能の習得に取り組むために実習を年間50%実施する。	A	A	A
	思考力・表現力を伸ばし、地域交流を年間3回実施する。	・生徒が主体的に他校・他分野の生徒や社会人と交流を行うための環境作りとサポートをする。	A	A	
	関心・意欲を高め、学んだ技能を生かせる生徒を70%にする。	・農業、環境に興味・関心を持ち、課題や改善策を見つけるための授業を実践する。	B	B	
商業科	・各種検定試験の合格者を増やす	・生徒の理解度に応じて補習をおこなう。	A	A	
	・ビジネス教育を通して規範意識の向上を図る。	・商業科目を通じて、ビジネスマナーの涵養に努める。	A		
成果	コロナ禍明け、本来の学校活動が行われるようになる中、地域への学校の諸活動が実施できるようになりました。特別支援学校と連携した授業、農業のGAP認証取得、地元幼稚園への活動など、生徒が主体的に活動する場面が多く見られた。学校の良いアピールにつながっている。また、学習活動にも力を入れ、生徒の進路実現を今後も達成させていきたい。		総合評価		A